

こども発達支援事業業務委託に係る公募型プロポーザル提案評価基準

1 提案の評価方法

(1) 評価基準の適用

本評価基準については、本プロポーザルの審査において適用する。

(2) 評価方法

選定委員は、別記「評価基準表」の「評価の視点」に基づき評価する。

評価の段階の基準は次のとおり。

段階	評価の段階の基準	点
A	「評価の視点」の内容等が具体的な記載により網羅されており、その内容が実践可能かつ効果的であるなど、特に優れている。	5点
B	「評価の視点」の内容等が具体的な記載により網羅されており、その内容が実践可能かつ効果的であるなど、優れている。	4点
C	「評価の視点」の内容等が具体的な記載により網羅されている。	3点
D	「評価の視点」の内容等の具体的な記載が不十分である。	1点
E	「評価の視点」の内容等に関して、具体的な記載がないなど、著しく不十分である。※代案の提示等により補完している場合は、不足がないものと取り扱う。	0点

(3) 順位について

ア 選定委員ごとに合計点に基づく提案者の順位を決定し、順位点を算出する。

ただし、以下の場合には「選外」と取り扱うものとし、次のイから除外する。

①「選定委員の全員の合計点が、満点の6割に満たない場合」又は「3名以上の選定委員が、満点の6割に満たない採点をした場合」に該当する場合

②評価中に「E」がある場合

イ 順位点は次のとおりとする。

順位点	1位…5点、2位…3点、3位以下…0点
-----	---------------------

ウ 選定委員全員の順位点の合計点に基づき、審査における提案者順位を決定する。

(4) 順位点が同じであった場合の取り扱い

次のとおり上位者を決定する。

ア 評価基準表の合計点が高い者

イ アが同じであった場合、評価基準表中の「企画提案」の合計点が高い者

ウ イが同じであった場合、評価基準表中の「業務遂行能力」の合計点が高い者

エ ウが同じであった場合、評価段階Aの数が多い者

オ エが同じであった場合、評価基準表中の「独自提案事項」に係る点数が高い者

こども発達支援事業評価基準表

評価項目	NO	評価事項	配点	評価の視点
業務遂行能力	1	法人の目的・理念	5	法人の目的・理念が明確であり、本事業の趣旨と親和性があるか
	2	関連事業の実績	5	発達に不安や特性のあるこども及びその保護者への支援について、本事業に生かせる十分な実績・経験・ノウハウを有しているか。園、学校、行政等との連携実績があるか。
	3	経営の安定性・事業の継続性	10	財政状況及び組織体制が安定しており、本事業を継続的・安定的に実施できると認められるか。
	4	経費の妥当性・効率性	10	提案内容と経費の整合が図られ、支援の質を確保しながら効率的な事業運営を行う工夫があるか。
	5	実施体制及び育成	10	必要な専門性を有する職員が適切に配置されているか。受託開始に向けた研修・準備が十分に計画され、事業開始後も継続的に職員の専門性を高める仕組みがあるか。
	6	職員処遇及び人材確保	10	職員の処遇改善や採用・定着に向けた具体的な取組が示されているか。欠員等が生じた場合にも安定して事業を継続できる体制があるか。
	7	安全管理・リスク管理	5	災害・事故・急病等への対応、虐待防止、送迎・乗降・引渡し等を含め、こどもの安全を確保するための適切な体制・対策が講じられているか。
企画提案	8	本事業に対する基本的な考え方	5	本事業の目的・役割を十分に理解しているか。こどもの特性を尊重し、保護者への支援及びインクルーシブの視点を踏まえた考え方となっているか。また、その考え方が具体的な支援に反映されているか。
	9	親と子の相談事業の事業内容	10	発達特性の見立てから受容支援、適切な機関へのつなぎまで、具体的な支援の流れが示されているか。
	10	「ちびっこ」「にこにこ」及び「ここのね」の支援内容・プログラム	10	それぞれの対象年齢、発達段階を的確に捉え、具体的かつ実現可能な支援内容・プログラムとなっているか。
	11	家庭・所属園との連携	10	事業で把握したこどもの特性や有効な関わり方を、保護者や所属園へ適切にフィードバックし、家庭・園で実践可能な支援につなげる取組となっているか。
	12	学校等との連携	5	就学後の生活を見据え、学校、教育委員会等と適切に情報共有・連携し、こどもの特性や有効な関わり方等を引き継ぎ、切れ目のない支援につなげる取組となっているか。
	13	保護者が安心して利用できるための取組	10	発達支援を利用することに対する保護者の心理的な負担を理解し、利用へのハードルを下げる周知・情報発信等の工夫があるか。保護者の就労状況や兄弟等の養育等、個々の家庭状況等を踏まえた柔軟で利用しやすい提案となっているか。
	14	支援の質の評価・改善	10	支援の効果を把握するため、何をもって支援効果と評価するのかを明確にした上で、具体的な評価指標及び評価方法が提案されているか。また、評価結果を支援内容や事業運営の見直しの反映し、継続的な改善につなげる仕組みが具体的に示されているか。
	15	独自提案	5	法人の専門性、経験及びノウハウを生かした提案であり、本事業の目的に合致し、効果、実現可能性及び継続性が期待できるか。
合計			120	

※ 番号3・4・5・6・9・10・11・13・14は、評価段階における点を2倍する。

例えば、評価段階「A」の場合は、5点×2＝10点となる。